

法遍寺 から大切な 皆様へ

2022年2月1日

日蓮正宗 年間方針

報恩躍進の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

常に明るく正直な生活

年間実践テーマ

①真剣な勤行・唱題で
歓喜の行動

苦難を開く

勤行・唱題

②僧俗一致の折伏で広布
へ躍進

諦めず

最後まで

③御報恩の登山と寺院参
詣で人材育成湯仰恋慕・朝夕の勤行
家庭訪問・寺院参詣・

支部総登山

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2022年1月1日の元旦勤行会

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日顕上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ

修羅(シュラ)の心は「諂曲(テンコク)といい、へつらい曲がった精神で、他に勝る執念が絶えず、勝てば誇り、負ければ恨む。十界のうち、地獄・餓鬼・畜生に続く生命の状態である。これを四悪趣(シアクシュ)といい、煩惱・業・苦の三道を生む四原則である。月は満月であっても池水が濁っていれば月影は映らない。同様に、信心のない人の心には仏界の功德も宿らない。大聖人は女人の懐妊をもってこれを譬えられた。「懐妊したばかりは自分でも気がつかないが、月が重なって懐妊を絶対と自覚する。法華経の法門もこれと同じで、南無妙法蓮華経(御本尊)を心に深く信じるならば、その心を栖として仏は宿る。月が重なれば心中に宿った仏が夢のように見え、喜悅の心が次第に出てくる」(御書1495頁 趣意)と。真剣な勤行と唱題を日々に重ねようではないか。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その18)

昭和54年5月3日、創価学会では、日達上人御臨席のもと、北條新体制による第40回本部総会が創価大学において開催された。その席上、日達上人は、池田氏・学会首脳の反省を認められ、「この数年間、まことに残念な出来事が続き、混乱を招きましたことは、悲しいことであります。幸いにして前会長の英断と、心ある人々の努力により、再び秩序の回復に向かい、晴々と今日の天気のごとく明るい出発ができることは、まことに喜ばしいことであります。(中略)どうか今後は信徒団体としての基本は忠実に守り、宗門を外護していただきたいのであります。その上で自主的な指導と運営で伸びのびと御活躍を願いたいのであります」と御指南された。これをもって昭和52年路線の一連の学会問題が収束されたのであった。(次回 日顕上人による協調路線の継承)

③ 正しい仏教への信仰を知らない方へ(地獄はどこにあるのか)

仏教は八万法蔵と呼ばれ、人はいかにして崩れぬ幸福を築くかという、人生の根本的な救済を眼目とする。その究極は、法界には仏の智慧と一体となる真理があり、もしその法に背くならば幸せとは反対の世界、つまり地獄という苦みのどん底が待っていることを説く。八熱・八寒・無間の地獄や針の山、閻魔大王の説を聞けば、何か特別な世界であるような錯覚に陥る人も多いはずである。日蓮大聖人は「浄土も地獄も外にあるのではなく、我らの胸の中にある」と、大苦悩である地獄が我々の生命に内在することを明かしている。つまり地獄とは今ここに生きる人間の生命にあり、焦熱地獄も叫喚地獄も、生命に冥伏する業が外界を縁として現実の生活として現れるのである。深い生命論を知るべくお待ちしている。